

沖縄県糸満市におけるゴーヤーの産地振興と新規就農者の取り組みについて

那覇事務所 片倉 杉夫

【要約】

沖縄本島南端に位置する糸満市は、県全体と比べても野菜の生産面積の割合が高く、多様な野菜生産が行われている。その中で、同市の主力産品であるゴーヤー（にがうり）は県内出荷が中心であり、地産地消を促進することで、産地の維持・強化を図っている。こうした取り組みが奏功して、新規就農者が着実に育成されており、就農2年目にもかかわらず平均単収の5倍近い高単収を実現した生産者も現れている。

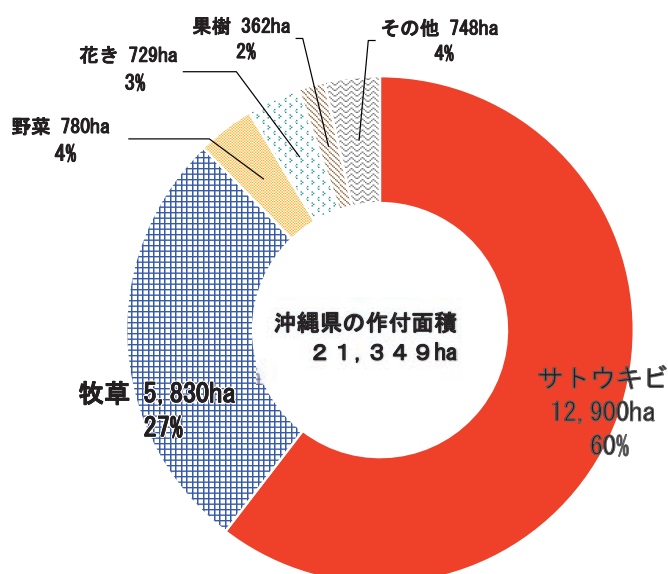
1 糸満市の野菜生産の動向

沖縄県は亜熱帯海洋性気候に属し、年間平均気温23.3度と1年を通じて温暖な地域であることを生かして、本州の端境期となる冬から春にかけて葉菜類などの野菜生産が行われている。

しかしながら、沖縄県は海に囲まれてい

る島しょ県であり、また、傾斜が急な産地・丘陵地が多いため、河川が短く、降った雨が土壤に浸透されずそのまま海へ流出しやすいこともあり、多量の水を必要とする野菜の生産は伸び悩んでいるのが現状である。このため作付面積に占める野菜の生産面積の割合はわずか4%と必ずしも多いとはいえない（図1）。

図1 沖縄県の作付面積の内訳（令和2年）

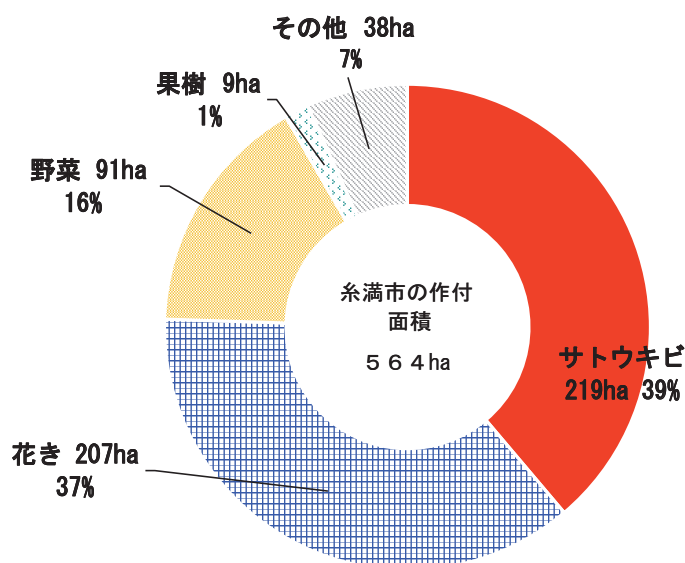


資料：農林水産省「わがマチ・わがムラ」
注：合計は各項目の単純積み上げにより算出した。

他方、糸満市は、防風・防潮林の整備に加え、農業用水を確保するため、地下ダムなどの農業基盤整備を進めてきたこともあり、県全体（4%）と比べても野菜の生産面積の割合（16%）が高く、多様な野菜

生産が行われている（図2）。その中で、今回は沖縄県を代表する野菜ともいえるゴーヤー（にがうり）に焦点を当て、生産の概況や優良生産者の取り組みなどを紹介する。

図2 糸満市の作付面積の内訳（令和2年）



資料：農林水産省「わがマチ・わがムラ」
注：合計は各項目の単純積み上げにより算出した。

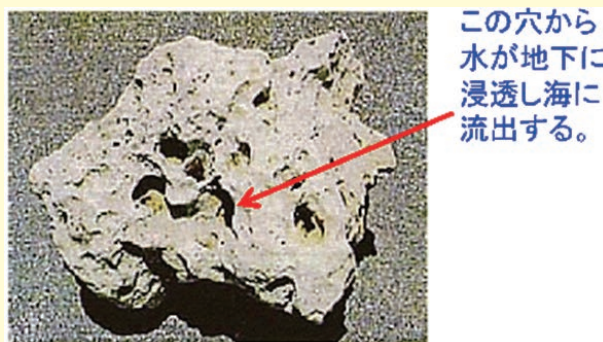
【コラム1】 地下ダムについて

沖縄地方には、水を通しにくい地層（島尻層）の上に、空隙（穴）が多く水を通しやすい琉球石灰岩が広く分布している地域がある（コラム1-図1）。

地下ダムは、地下に止水壁を造成することで、これまで海に流れ出ていた地下水の流れをせき止め、地下水を貯留する施設である（コラム1-図2）。

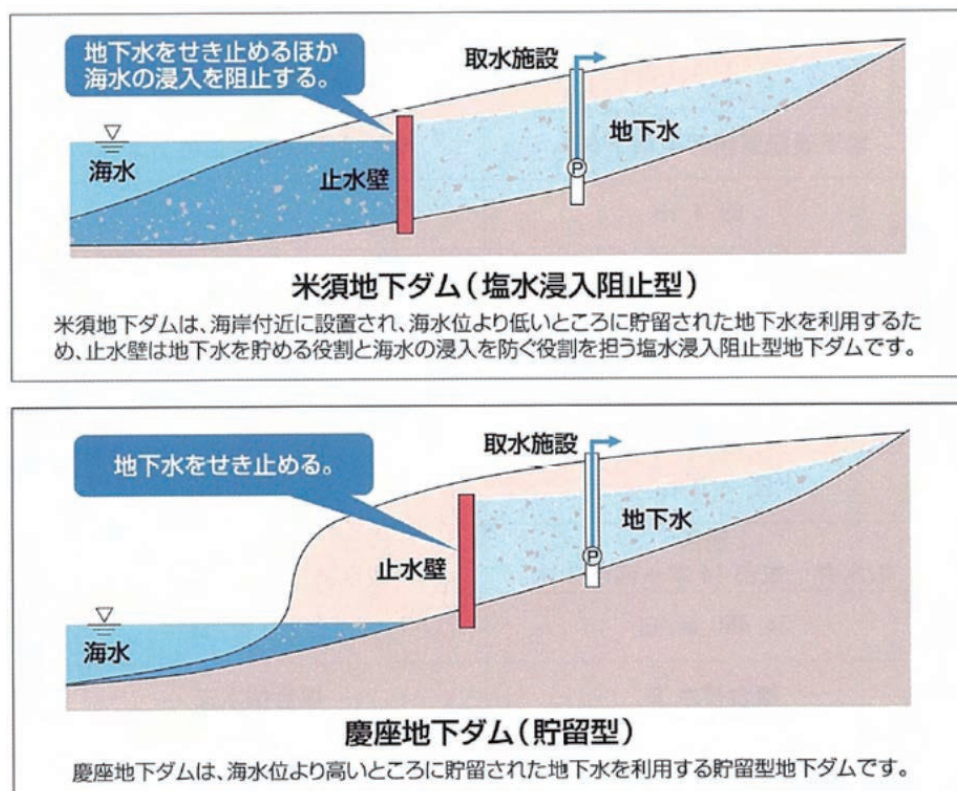
糸満市を含む沖縄本島南部の畑作地帯は、水系が未発達で河川らしい河川が無い^{しまじり}ため地表水を利用した畑地かんがい^{しすいへき}が困難であり、また、琉球石灰岩を母材とする保水力に乏しい土壌（島尻マージ）と相まって、これまで雨水に頼る農業を営む地域の農家はたびたび干ばつに苦しめられ、不安定な農業経営を余儀なくされてきた。しかし、平成12年に慶座地下ダム（八重瀬町）、15年に米須地下ダム（糸満市）がそれぞれ完成し、安定した水源を確保することができるようになった（コラム1-図3）。

コラム1-図1 琉球石灰岩



資料 内閣府沖縄総合事務局ホームページ

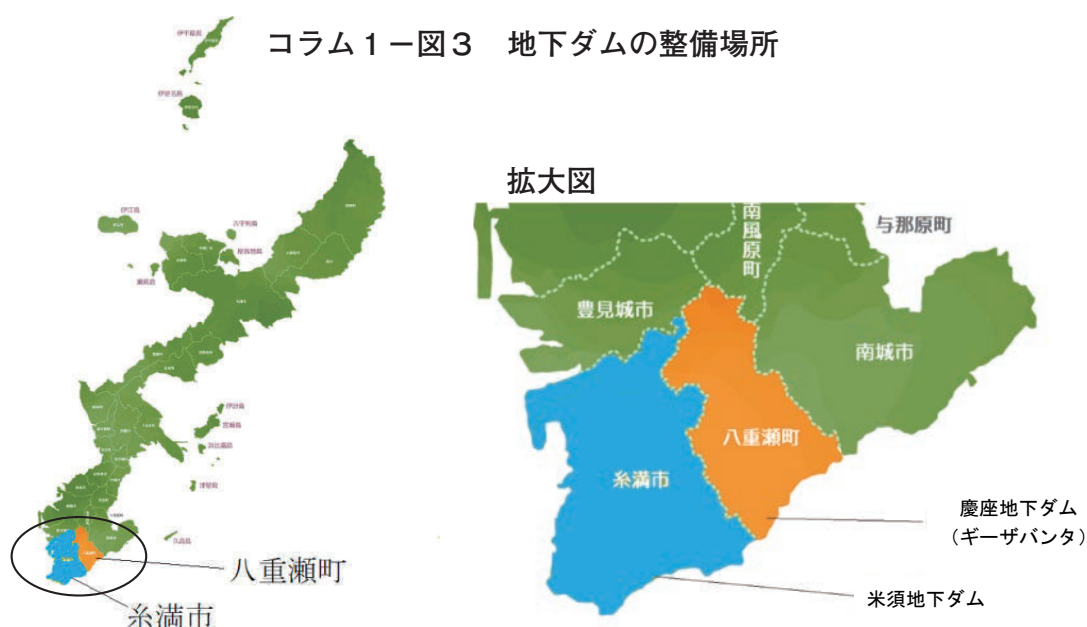
コラム1-図2 地下ダムのイメージ



資料 沖縄本島南部土地改良区

八重瀬町にはギーザバンタという崖があり（ギーザは地名「慶座」、バンタは沖縄の方言で「崖」を意味する）、地下ダムからあふれた水（慶座地下ダムは貯水容量が少ないため降雨などにより地下ダムから水があふれる）がこの崖に流れ出たことで、平成12年以降に滝が出現し、「ギーザの滝」と呼ばれ、（コラム1-写真）観光スポットとなっている。

コラム1-図3 地下ダムの整備場所





コラム１－写真 地下ダムの整備によって出現したギーザの滝

2 沖縄県および糸満市のゴーヤーの生産動向

(1) 沖縄県のゴーヤーの生産動向

ゴーヤーはインド東部、インドネシア、ボルネオなど東南アジア原産のつる性のウリ科野菜で、「ツルレイシ」と呼ばれているが、スーパーマーケットなどではゴーヤーの呼び方が一般的となっている。沖縄県には1424年に中国から導入され、栽培が始まったとされている。

沖縄県で生産されるゴーヤーは、地元消費のほか、他産地の端境期に県外へ出荷されている。沖縄県で生産されるゴーヤーは令和2年産では全国1位の6070トンになっており、全国の37%を占めている（表1）。ゴーヤーは県内の野菜生産における主要品目であり、沖縄県農業研究センターによる優良品種の育成、栽培施設の整備、消費拡大対策などにより生産振興が図られている。

表1 令和2年産都道府県別のゴーヤーの出荷量

(単位：トン)

都道府県	出荷量	割合
沖縄	6,070	37%
宮崎	2,600	16%
群馬	1,890	12%
鹿児島	1,670	10%
長崎	942	6%
その他	3,228	20%
計	16,400	100%

資料：農林水産省「地域特産野菜生産状況調査 令和2年産」

東京都中央卸売市場におけるゴーヤーの月別入荷実績（令和元年）を見ると、12月から翌4月までの入荷量の約8割を沖縄県産が占めている（表2）。

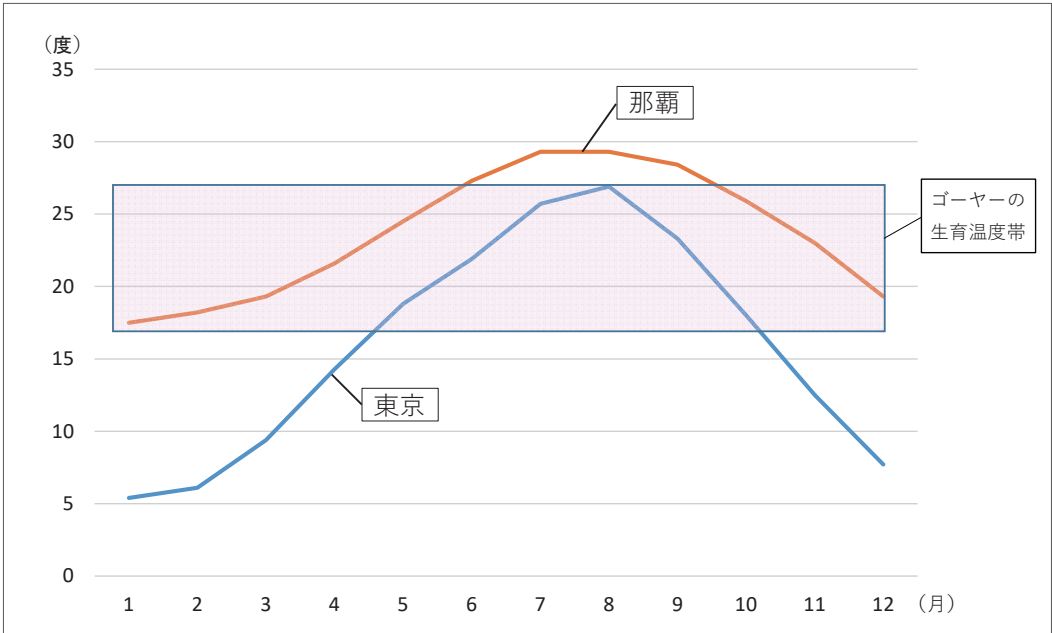
ゴーヤーは高温性の野菜で生育の適温が17～28度であるため、沖縄県内の産地では、他産地の気温が低く出荷できない期間に多く出荷している（表2、図3）。

表2 令和元年東京都中央卸売市場におけるゴーヤーの産地別月別入荷実績および占有率（上位5県）

		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
沖縄県	数量（トン）	776	44	99	104	160	171	122	17	2	0	4	14	39
	占有率（%）	31	88	95	90	79	59	39	5	0	0	5	31	83
茨城県	数量（トン）	475	0	0	0	0	3	21	84	250	100	15	1	0
	占有率（%）	19	0	0	0	0	1	7	22	37	48	19	2	0
群馬県	数量（トン）	376	0	0	0	0	1	11	80	214	63	7	0	0
	占有率（%）	15	0	0	0	0	0	3	21	32	30	8	0	0
宮崎県	数量（トン）	351	2	1	2	28	56	61	85	69	12	19	11	5
	占有率（%）	14	4	1	2	14	19	19	22	10	6	25	24	10
鹿児島県	数量（トン）	186	0	0	0	1	11	46	53	31	8	22	14	0
	占有率（%）	7	0	0	0	1	4	15	14	5	4	28	31	1

資料：沖縄県「沖縄県の園芸・流通（令和4年1月）」
注：色付きはその月（年）最も占有率の高い地域。

図3 年間平均気温（東京、沖縄（那覇市））とゴーヤーの生育温度帯



資料：気象庁

（２）糸満市のゴーヤーの動向

沖縄県は、農林水産業を取り巻く環境の変化に対応した計画的な生産・出荷体制を構築するため、「沖縄県農林水産業振興ビジョン・アクションプログラム」を平成11年2月に策定した。以後の農林水産業振興施策では、生産基盤の整備などを通じた農林水産物の市場競争力の強化により、生産拡大および付加価値を高めることが期待できる品目（戦略品目）を選定し、当該産地の生産者や生産出荷団体、市町村らが主体的かつ連携して取り組める体制を整備しており、「おきなわブランド」確立に向けた拠点産地の形成に取り組んでいる。

糸満市は、表3の通り、さまざまな品目が拠点産地として認定を受けており、その中でゴーヤーは当該施策の初期段階と言える平成14年5月に認定されている。

糸満市のゴーヤーの出荷量は、県内では宮古島市、今帰仁村に次いで、第3位の791トンを出荷しているものの（図4）、作付面積、出荷量がともに10年前と比べ4割減少している（図5）。生産減少の背景は、植え付け時期や収穫時期にたびたび襲来する台風の影響や、他作物への転換がある。

表3 農林水産戦略品目拠点産地
認定品目一覧

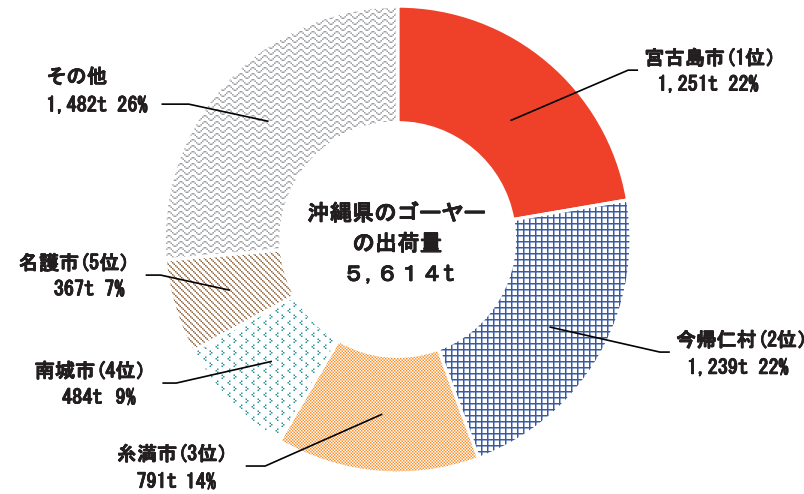
認定年月日	対象品目
平成12年6月28日	レタス
平成14年5月2日	ゴーヤー
平成15年9月24日	小ぎく
平成15年9月24日	パッションフルーツ
平成18年1月24日	ニンジン
平成25年1月22日	肉用牛（子牛）
平成27年11月20日	ソデイカ
平成29年1月10日	マグロ類
平成29年7月14日	マンゴー
令和4年3月28日	きゅうり

資料：糸満市 「5月8日「ゴーヤーの日」の取組資料」

また、ゴーヤーは主に施設栽培のため、施設内の温度管理が重要であり、特に日中ハウス内の温度が急激に上昇すると病害虫や奇形果の発生を引き起こすため、温度管理や水管理など手間のかかる作業が多い。加えて、県外出荷は輸送料の負担が大きいが、必ずしも価格に転嫁できていない現状がある。

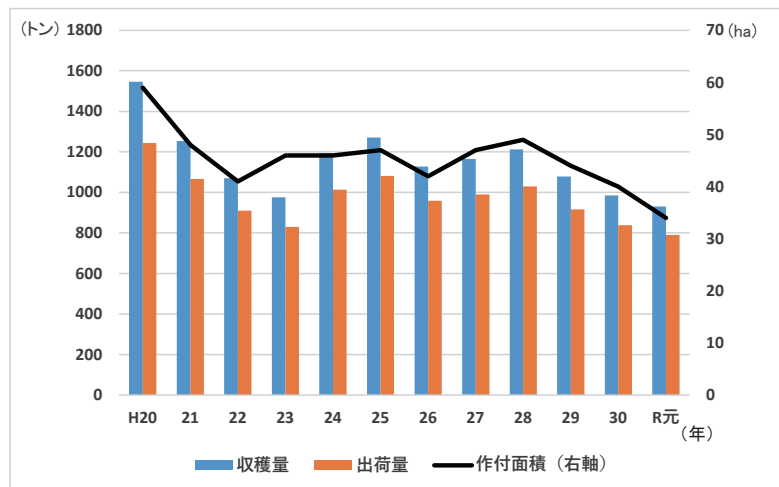
このため、糸満市の産地では県内の消費地である那覇市を中心とする都市圏に近いという地理的利点を生かし、地産地消の推進を図ることにより、産地の維持・強化に努めている。

図4 沖縄県のゴーヤーの出荷割合（令和元年産）



資料：糸満市 「5月8日「ゴーヤーの日」の取組資料」

図5 糸満市のゴーヤーの作付面積、収穫量および出荷量の推移



資料：糸満市 「5月8日「ゴーヤーの日」の取組資料」

【コラム2】 糸満市における地産地消推進の取り組み

日本一のゴーヤーの産地である沖縄県では、平成9年に沖縄県が5月8日を「ゴー（5）ヤー（8）」の語呂合わせから「ゴーヤーの日」と制定したことをきっかけに、日付が逆の8月5日は「裏ゴーヤーの日」と呼ばれるようになった。

糸満市では、5月から6月ごろが出荷の最盛期になることもあり（コラム2－表）、ゴーヤーの日から裏ゴーヤーの日までの期間を地域内での流通と消費の拡大を図る重要な機会と捉え、行政、生産者、JAなどが連携して市内の小学校における食育学習への参画や、小中学校給食へのゴーヤーの無償提供、保育所における苗の定植体験（コラム2－写真）、JAの直売所での試食会などの取り組みを通じて地産地消に対する意識の啓発を図っている。

コラム2－表 令和3年度糸満市月別出荷実績

（単位：トン）

出荷月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
県内	28	55	57	17	5	13	13	10	9	10	11	21	250
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料：糸満市 「令和3年度拠点産地活動報告について」

注：数値はJA出荷分のみ。



コラム2－写真 保育所におけるゴーヤー苗の定植体験

(3) 主な品種と出荷

糸満市のゴーヤーは、植え付け時期によって品種が異なる。春から夏（1～7月）は多収で雌花数が多い「むるぶし群星」（写真1）や、単為結果、扁平果が少ない「なつざかり夏盛」（

写真2）、秋から冬（8月～翌年6月）は冬でも収量が落ちにくい「しおかぜ汐風」（写真3）や、果実突起が丸く、色が濃緑な「ていだみどり」（写真4）などの栽培をしている。



写真1 「群星」



写真2 「夏盛」



写真3 「汐風」

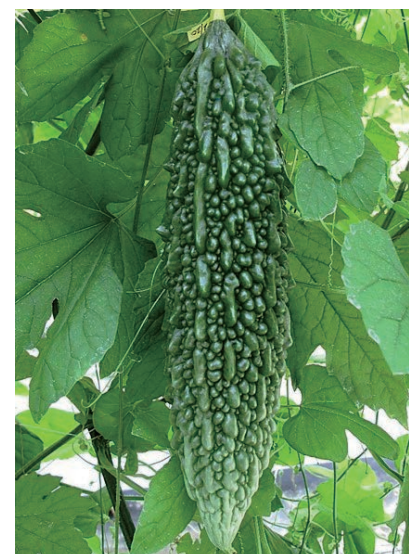


写真4 「ていだみどり」

(4) 出荷と販路

収穫されたゴーヤーは、生産者がJAの支店集荷場へ搬入し、JAの担当者が選果場へ搬入し、そこで選別から箱詰め作業ま

でを行い、出荷される。収穫物を集め、選果場で共同選別を行う共選と、生産者が個別に選別や箱詰め作業を行う個選との割合は、共選：個選＝3：7である。

共選場は糸満市内にあり、沖縄県南部地域一帯のゴーヤーが搬入され、選果機に取り付けられたカメラによる画像診断により、ゴーヤーのサイズを自動判別し、サイズごとに選果が行われている。大きさや品質のばらつきが少なく、安定したゴーヤーを出荷する体制を整えている。選果場には約30人の職員、パート職員が働いており、選果機により選果されたゴーヤーの箱詰めや収穫量が少ない時期の手選果などの作業を行っている（写真5）。共選ピーク時の5～7月には日量約1～3トン、年間の平均日量は約300キログラムの出荷となり、また個選を含むピーク時の日量は約4～7トン、年間平均日量は約3トンのゴーヤーが出荷されている。

現在は主に生食用として地元の卸売会社に相対取引で販売しているが、販路拡大のため、冷凍食品製造業者や弁当製造業者などからの加工・業務用需要への対応強化を模索している。

（5）新規就農者に対する支援体制

糸満市は若い新規就農者が多く、同市を含む南部地域では61人の新規就農者が

活躍している。若い新規就農者が多い要因は、若い農業者で組織される「糸満市農業青年クラブ」で、定例会や圃場^{ほじょう}視察などの勉強会が行われており、青年農業者が抱える問題を情報交換できる場があることなどが挙げられる。そのほか、「糸満市農業戦略産地連絡協議会」で、病虫害の駆除の指導や被害の紹介を行い、どのような農薬を使用し栽培したら良いかについて定期巡回を行って生産者を支援していることなども要因として挙げられる。

さらに、沖縄県では国の事業を活用し、新規畑人資金支援事業により就農前の研修を後押しする資金（就農準備資金：最長2年、年間最大150万円）および就農開始直後の経営確立を支援する資金（経営開始資金：最長3年、年間最大150万円）の交付、新規就農者支援事業（経営発展支援事業）により就農後の経営発展のために必要な機械・施設の導入などの取り組みを支援（最大750万円、ただし経営開始資金を併用する場合は375万円）するなど、就農支援対策を行っていることも魅力に感じていると思われる。



写真5 JAおきなわ糸満支店兼城選果場の様子

3 新規就農者の取り組み事例

(1) 玉城力氏の生産概況

糸満市の玉城氏は33歳で新規就農し、今年就農2年目を迎えている。現在は10アールのハウスでゴーヤーを1人で栽培

しており、ゴーヤーを栽培しない時期にはきゅうりを栽培している。収益性の向上のため、今後は作付面積を7アールほど増やす予定である。作付けしているゴーヤーの品種は冬でも収量が落ちにくい「汐風」を栽培している（写真6～8）。



写真6 糸満市でゴーヤーを栽培している玉城氏



写真7 ゴーヤーのハウス内



写真8 玉城氏が栽培しているゴーヤー

(2) 作型

ゴーヤーの栽培はハウスによる施設栽培が中心で、糸満市の主な作型として、促成栽培と半促成栽培がある。播種は、促成栽培は9月から11月にかけて、半促成栽培はさやいんげんの後作にゴーヤーを植え付けることがあるため1月から3月にかけて行い、どちらも60日前後で収穫が開始となる。

いずれの作型も二期作が一般的で、一期作の生育期間は平均2カ月、単収は10アール当たり1.1トンであるが、玉城氏の作型は、10月頃に苗を植え、6月頃に収穫する単作で、生育期間は8カ月と長く、単収は10アール当たり5.4トンである(図6)。玉城氏の単収が糸満市平均の5倍近くある理由は、1) 定期的に収穫量に合わせて追肥する 2) 良いゴーヤーの雌花だけに花粉をつけるようにして無駄な果実を

作らず、正品率を高くするよう努力する 3) ゴーヤーが大きくなるよう一期作の長期生育を行っている 4) ゴーヤーを栽培しない時期にきゅうりを育て、連作障害を防止している一ことなどが挙げられる。

また、玉城氏はゴーヤーの病害虫であるアザミウマやコナジラミの天敵(スワルスキーカブリダニ^(注))を利用した生物的防除法による減農薬栽培を行っている。

スワルスキーカブリダニを使用することにより労力が削減された結果、農薬散布が14回から4回に削減され、農薬散布にかかる年間の作業時間は3分の1以下に短縮できた。天敵利用の減農薬で病害虫は増えておらず、収穫量は変わっていない。

注：スワルスキーカブリダニはコナジラミ類の卵・幼虫やアザミウマの幼虫を捕食する天敵であり、生物農薬として利用されている。高温多湿を好み、活動適温は28度である。

図6 糸満市のゴーヤーの作型

		○播種・△定植・□収穫											
作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
糸満市	促成	□□□	□□□	□□□	□□□	□□□				○—△			□□□
	半促成	○—△			□□□	□□□	□□□	□□□	□□□		○—△		
玉城氏			○—△			□□□	□□□	□□□	□□□	□□□	△		

資料：農畜産業振興機構「沖縄県 J A おきなわ南部地区～沖縄の太陽を浴びた夏野菜ゴーヤーの生産」、J A おきなわ「南部地区ゴーヤー促成防除暦」

4 おわりに

国、沖縄県、糸満市、J A などの関係機関の手厚い支援が産地を盛り立て、これをけん引する新しい芽も育ち始めている。今回紹介した玉城氏は現在1人で作業を行っているが、将来的には従業員を雇用して規模拡大しようと考えており、これまでの産地維持・強化の取り組みが着実に実を結びつつある。関係機関が産

地振興や若い新規就農者の増加に取り組んでいることにより、今後の発展に期待できる。

最後に今回取材にご協力いただいた公益社団法人沖縄県園芸農業振興基金協会の赤嶺氏、J A おきなわ南部営農振興センターの喜納氏、久場川氏、沖縄県農林水産部営農支援課の又吉氏、糸満市経済部農政課の砂川氏、生産農家の玉城力氏に深く感謝を申し上げます。

参考文献

- ・農林水産省 「地域特産野菜状況調査 令和2年産」
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500501&tstat=00001018175&cycle=7&year=20200&month=0&tclass1=000001033588&tclass2=000001167008>
(2022/7/25アクセス)
 - ・農林水産省「わがマチ・わがムラ」
<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/>
(2022/7/25アクセス)
 - ・農林水産省「農山漁村ナビ」
<https://www.nou-navi.maff.go.jp/case/detail/940/>
(2022/8/19アクセス)
 - ・沖縄県「沖縄県の園芸・流通（令和4年1月）」
<https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/engei/r4engei/r4engei.html>
(2022/8/4アクセス)
 - ・高知県農業技術センター 「購入できるカブリダニ類の生態と特徴」
<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/info/dtl.php?ID=8390> (2022/6/1アクセス)
 - ・東京都中央卸売市場「価格はどのように決まるのですか？」
<https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/faq/shikumi/1-4/> (2022/05/30アクセス)
 - ・沖縄総合事務局 「地下ダムとは」
<http://www.ogb.go.jp/nousui/nns/c2/tikadamu> (2022/08/09アクセス)
 - ・沖縄総合事務局 「慶座（ギーザ）地下ダム」
<https://www.okinawan-pearls.go.jp/?act=detail&si=514> (2022/08/09アクセス)
 - ・沖縄総合事務局 「慶座（ギーザ）の滝」
<https://www.okinawan-pearls.go.jp/?act=detail&si=515> (2022/08/09アクセス)
 - ・沖縄総合事務局 「沖縄における水源開発の必要性」
<http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/nousui/nns/c3/kouhoupaneru/suigenkaihatu.pdf?la=ja-JP&hash=3A22C88D5C8A1D9BFE042229567F553A89CB2963>
(2022/09/14 アクセス)
 - ・沖縄本島南部土地改良区 「地下ダムとは」
<http://nanbu-chika-dam.jp/dam/dam.html>
(2022/09/14 アクセス)
 - ・気象庁 「過去の気象データ検索」
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (2022/08/16アクセス)
 - ・新垣 かおる (2020)「産地紹介：沖縄県 JAおきなわ南部地区～沖縄の太陽を浴びた夏野菜ゴーヤーの生産」『野菜情報』(2020年8月号) pp32-35
 - ・糸満市 「5月8日「ゴーヤーの日」の取組資料」
 - ・糸満市 「令和3年度拠点産地活動実績報告について」
 - ・沖縄県農林水産部南部農業改良普及センター (2022)『令和3年度普及指導活動実績「普及のあゆみ」』pp3-4、P9
 - ・根本 久 (2013)『野菜を病気と害虫から守る本』NHK出版 pp26-27
 - ・沖縄県農業研究センター 「沖縄県育成品種」
 - ・JAおきなわ 「南部地区ゴーヤー作成栽培防除暦」
 - ・沖縄県農林水産部 (2014)『沖縄県野菜栽培要領』(平成26年3月) pp84-85
-